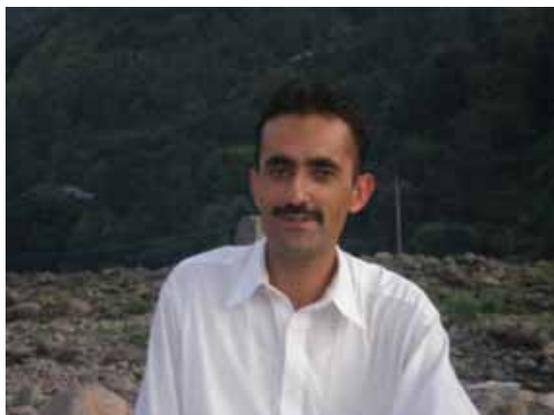


## 2005年10月8日の地震に寄せて ムハマド・シャキール／パキスタン

2005年10月8日の朝、すべてはいつもと同じだった。イスラムのカレンダーでは、ラマダン月にあたる神聖な朝だった。朝食の後、眠りについた者、仕事へ行った者もいた。子供は学校へ行ったし、女性は掃除で忙しかった。

私（筆者）はその時間、私立小学校で教師として働いていた。午前8時には学校に着いた。朝会の後、子供たちは一時間目の授業の準備をしていた。私を含め、全ての教師たちは職員室にいた。今でも覚えている。私が子供たちの出席票を持って授業に向かおうとしていた8時53分、突然悲鳴を聞き、それから



すぐ地球が揺れた。同僚の一人が“ザルザラ（地震）”だと泣いた。私たちはみんな走って事務所を出、一方で子供たちも教室から走り出た。揺れはまだ続いていた。立っているのが非常に難しかったので、みんなで地面に座った。誰もこのような状況を経験したことがなかったので、とてもおびえていた。子供たちは泣いていたが、私たちの学校では誰も怪我をすることはなかった。

私たちの学校の近くには、公立の学校があった。そこでは、学校の建物が崩壊し、子供たちが助けを求めて泣いているのを見た。自分たちの学校の生徒を家へ送った後、私は友達と一緒に公立学校へと行った。他にも、マーケットの方面から多くの人々がやってきた。私たちは倒壊した建物の下から子供たちの救出を開始した。多くが負傷し、教師たちは処置のために負傷者を診療所へ連れて行ったが、診療所もまた倒壊していた。私は思いがけなく、自分の村の全家屋が倒壊したと聞いたため、家族の安否を確認するため、自宅に帰ることにした。学校から家までは、歩いて2マイルの距離にある。家への帰り道、私は全ての家屋が倒壊し、いたるところで人々が泣く声を聞いた。私は家族や親戚が気になって、家に向かって走り続けた。

家にたどり着いたとき、母は涙を流した。彼女は私に、小さな甥が家の中に取り残されているのに、家がベシヤンコになってしまったと言った。兄と母は甥を助けようと必死に瓦礫を掘っていた。私も彼らに加わったが、掘る道具を持たなかった私たちにとって、それは非常に難しいことだった。また、他に11人の近い親戚が家の下敷きになったまま放置されていることを聞いた。みんなそれぞれの家で掘り出すのに一生懸命で、誰もお互いに助け合うことはなかった。日が沈むころ、私たちは甥を外に出すことができたが、すでに亡くなっていた。私の家族はみんな涙を流した。他の11人の親戚も亡くなったことを聞いた。その日は、私たちの人生の中で一番ひどくつらい日であった。食べるものもなく、全

てが家の下敷きとなり覆いかぶさっていたが、身内のことを思うと心が痛くて、誰一人お腹がすいたとは言わなかった。夜になって明らかになったことは、みんなを収容する避難所は数が少なく、きつい夜が始まったということだった。たった一軒だけ難を逃れた家があった。親戚たちは自力でその家へ避難したが、みんな立ったままだった。余震を感じたときには、みんな走り出た。私たちは眠らずに過ごし、地震から二日目に亡くなったすべての人を埋葬した。

私の人生で一番つらい日だった。私たちの心から決して消えてなくなることはないだろう。地震の後、私はコンピューターセンターで働き始めた。すべてのことが地震の前と異なって見える。地震の後、生活がとても速いものになった。ある日、コンピューターセンターで私が忙しく働いている時、おじが私に、バグ公立大学 ( Govt. College Bagh ) に来ている日本人がアシスタントを必要としていると教えてくれた。そこで私はその人物に会いに行った。私は大学で彼に会った。彼は、“ コウイチ シワク ” という名前と SEEDS ASIA という NGO に所属していると紹介し、私にアシスタントとして彼と一緒に働くように誘ってくれた。日本人は一生懸命働き、職業人であると知っていた私は、コウイチのような人から学びたいと思っていた。私は彼に前向きな答えを示し、後日、彼と働き始めた。

それは私にとって初めての経験だった。なぜなら、この仕事の前には私はこの地を意識することがなかったからだ。コウイチは、専門的技術とその能力によって、このプロジェクトを全く経験のない人間と成し遂げた。彼は、私に先生のように何でも教えてくれた。彼はいつも私を励まし、仕事が難しいと私が感じている時にはいつでも「君ならできる。その能力を持っている」と言ってくれた。私は彼の仕事ぶりに本当に感動した。

ある日ついに、私は NGO ( STAR ) を立ち上げることができた。ADRRN のプロジェクトで働いていた期間、時々私は問題に直面した。地震の後、多くの人々が避難所の不足に陥ったため、人々にとって仕事に注意を向けることは簡単ではなかった。しかし、大きなダメージを与えた地震の後、私にとってそれは興味深いプロジェクトであった。このプロジェクトには、私にとって本当にたくさんの教訓があったと思っている。